

Radiometric Potassium count and Factor score 2 distribution map

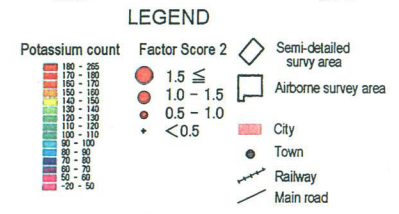
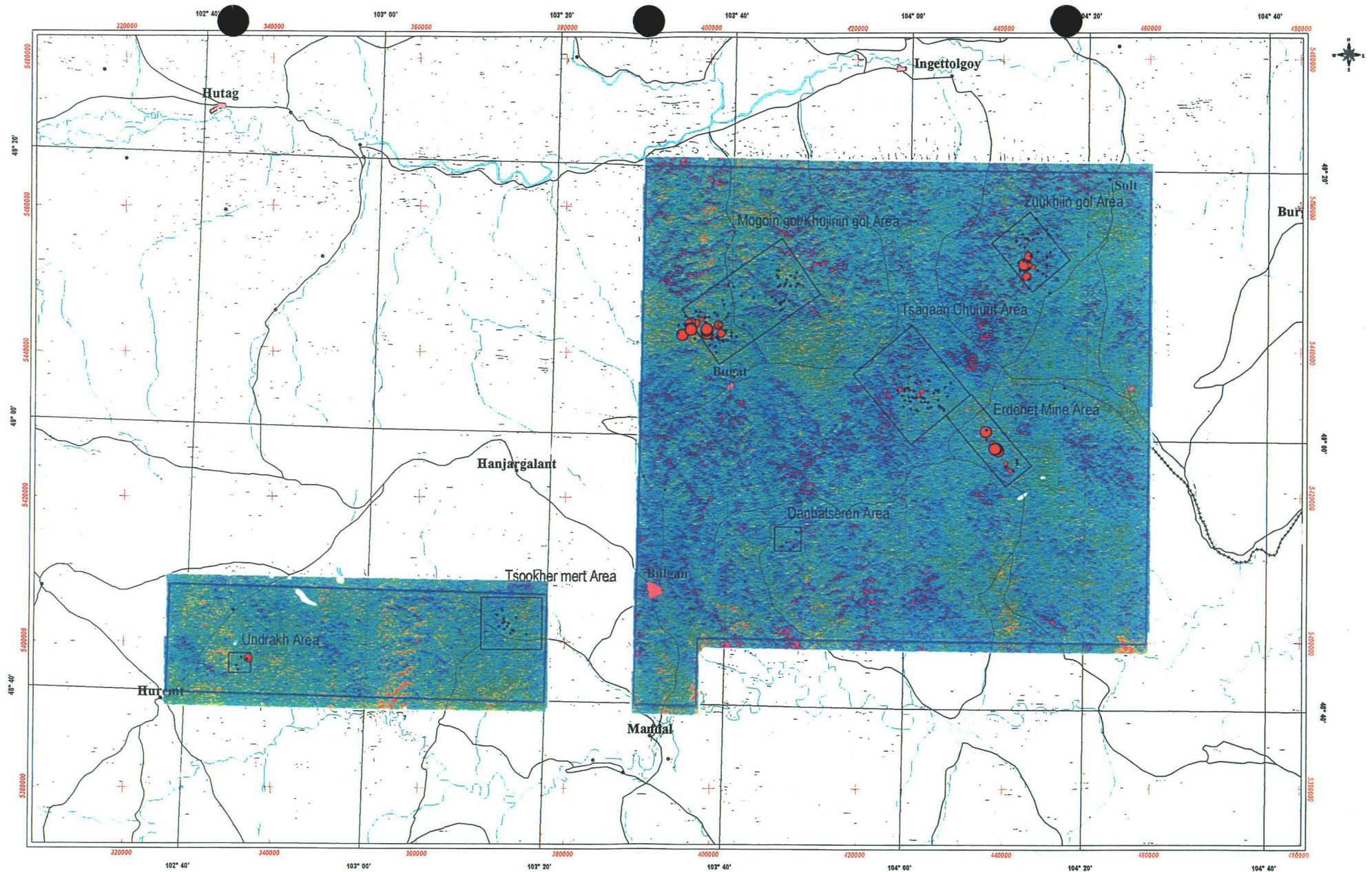


Fig. II-3-6 Colored Potassium radiometric image and factor 2 distribution in the Western Erdenet area



Radiometric Uranium count and Factor score 2 distribution map

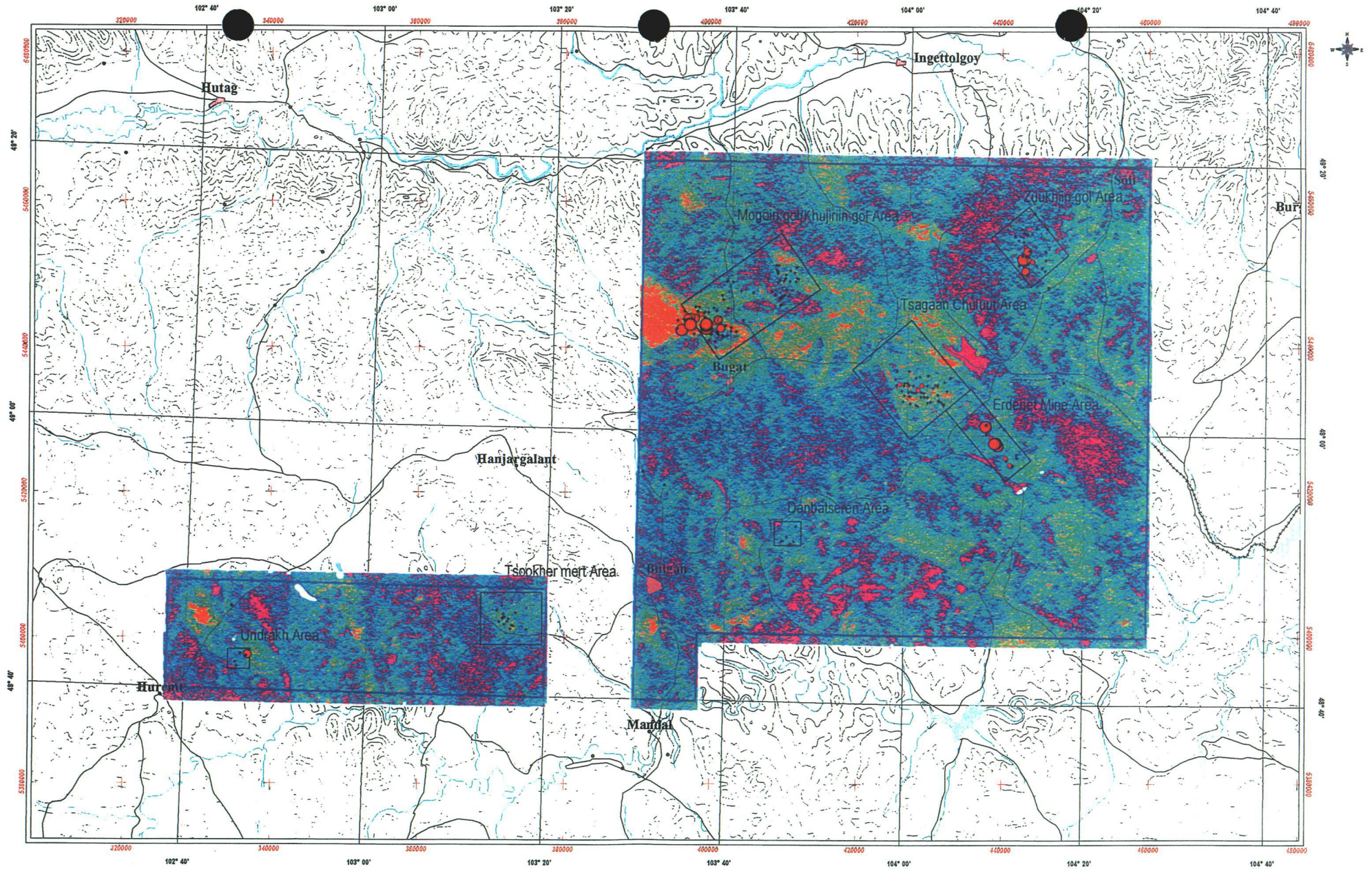
Fig. II-3-7 Colored Uranium radiometric image and factor 2 distribution map in the Western Erdenet area

LEGEND

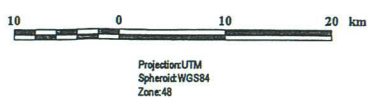
<p>Uranium count</p>	<p>Factor Score 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.5 ≤ 1.0 - 1.5 0.5 - 1.0 < 0.5 	<ul style="list-style-type: none"> Semi-detailed survey area Airborne survey area City Town Railway Main road
----------------------	---	---

10 0 10 20 km

Projection: UTM
Spheroid: WGS84
Zone: 48



Radiometric Thorium count and Factor score 2 distribution map



LEGEND

	Thorium count		Semi-detailed survey area
	Factor Score 2 1.5 >=		Airborne survey area
	1.0 - 1.5		City
	0.5 - 1.0		Town
	< 0.5		Railway
			Main road

Fig. II-3-8 Colored Thorium radiometric image and factor 2 distribution map in the Western Erdenet area

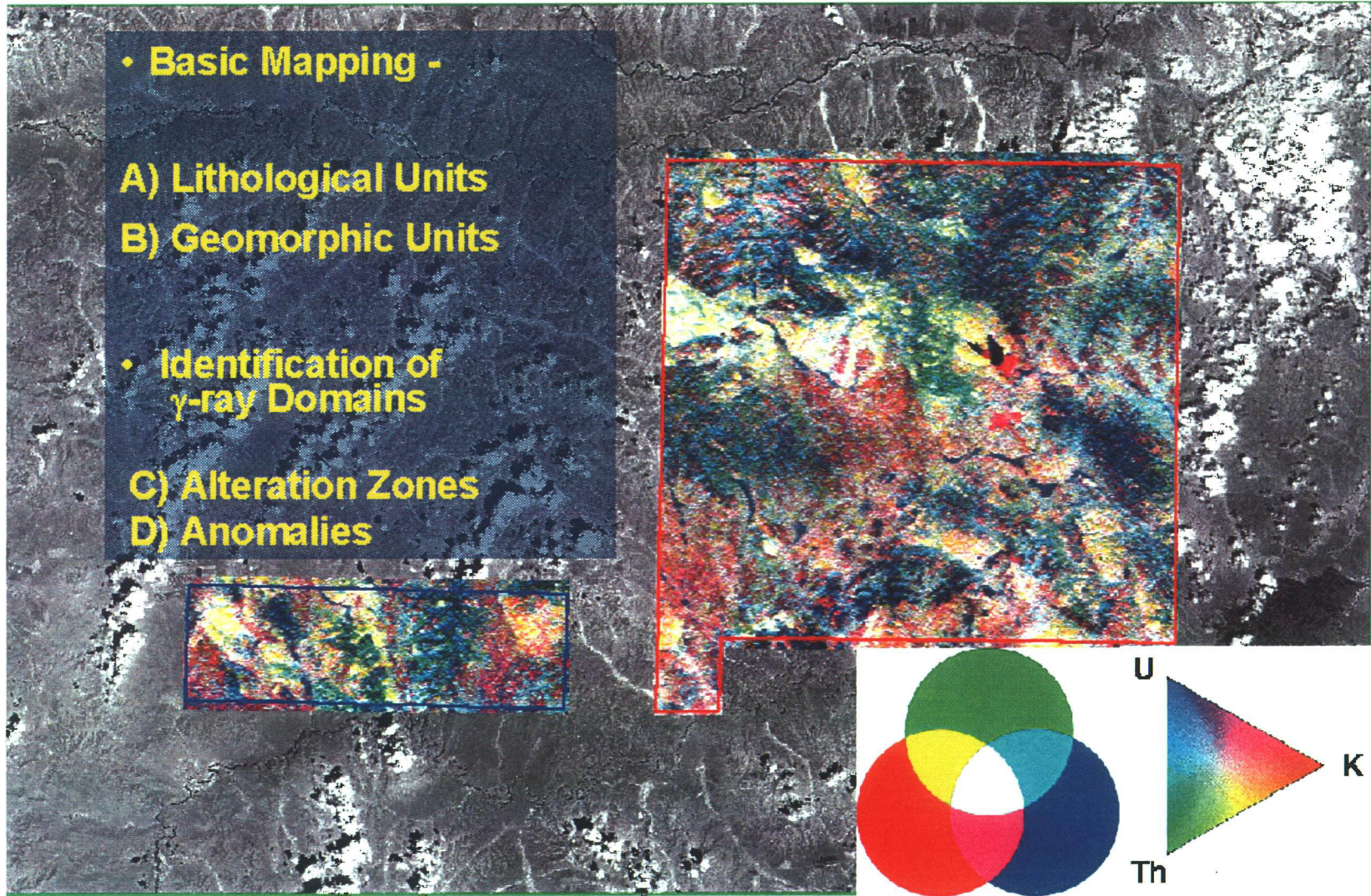


Fig. II-3-9 Colored Ternary radiometric image in the Western Erdenet area

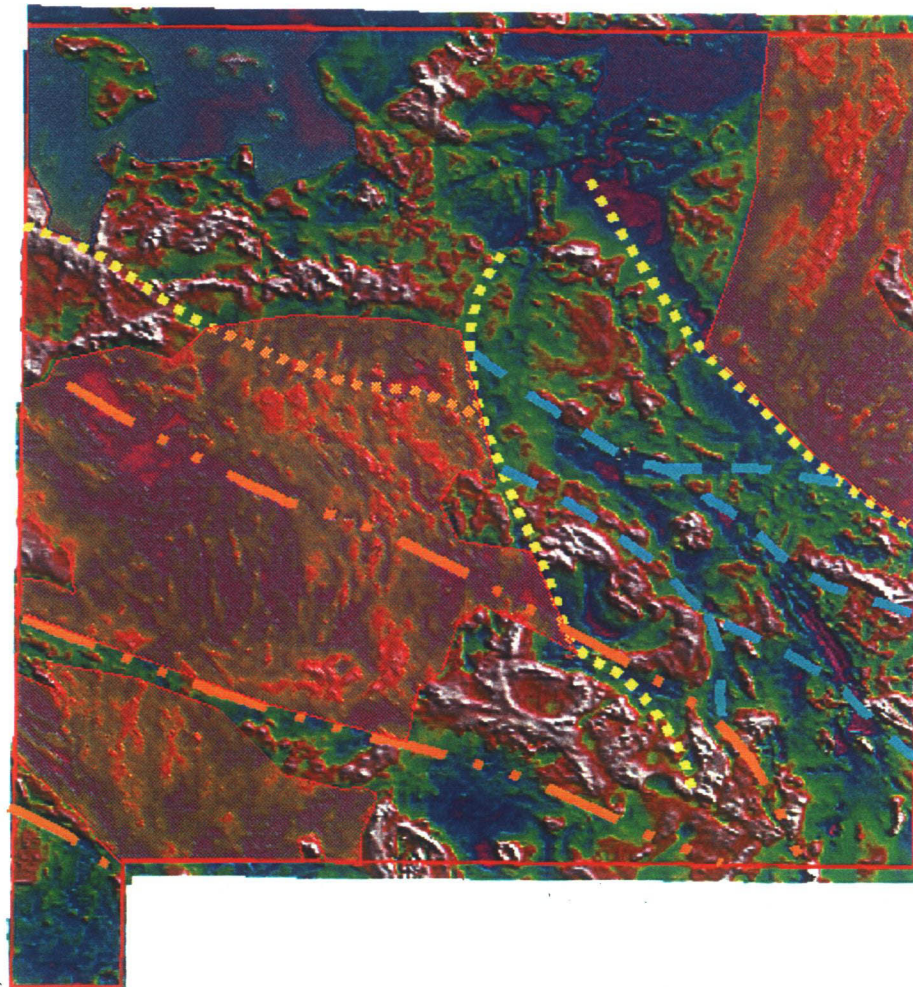
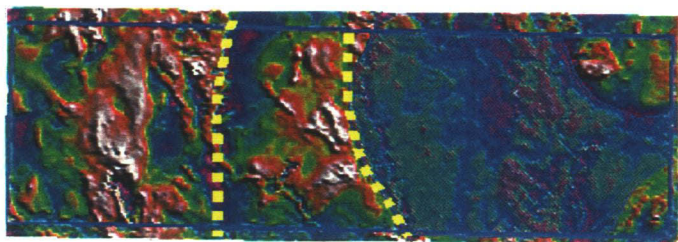


Fig. II-3-10 Solid Interpretation Map (1)

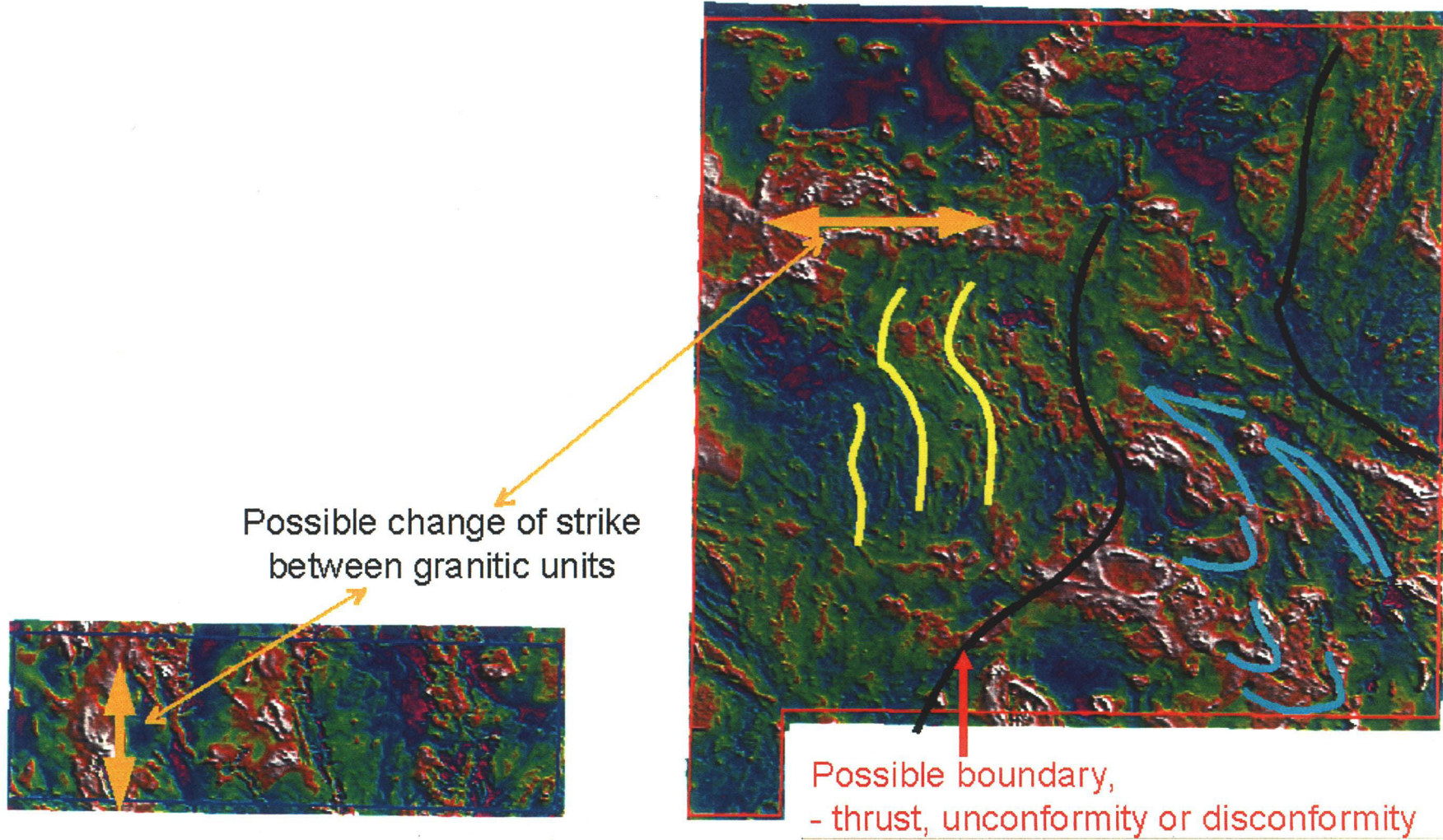


Fig. II-3-11 Solid Interpretation Map(2)

岩類は地域2では西側に分布し、N-S方向の構造を示している。

地域1の南側に検出されるENE-WSWの構造線はこれらを切るように分布している。

3-5-5 総合解析図(2)

図の黒色は基盤岩類とより若い堆積盆地の境界を示しており、突き上げ断層か不整合による不連続面を示している。基盤岩中には鋭角状の低磁気異常帯が複数認められ(図の青色線)、変質により消磁下もので鉍化との関連性が深いと考えられる。

堆積盆地の中にはSの字状の構造線(図の黄色線)が複数認められ、基盤岩類の流域に伴って褶曲したものと考えられる。

3-6 物理探査の結論

空中物理探査は、Fig. 2に示した調査範囲において空中磁気探査及び空中放射能探査を実施した。調査範囲は5,500km²であり、飛行測定距離は26,538kmである。

西部エルデネット地域において実施した空中物理探査の結果、地域1ではNW-SE方向の低磁気異常帯が南東端から地域の中央に向かって緩やかな凸型で連続しており、さらに西方に延長している。さらにこの低磁気異常帯中には鋭角状の低磁気異常帯の交差部が複数認められ、エルデネット鉍山はこの直上部に位置しており、低磁気異常帯が鉍化変質によって生じたものであり、鉍化作用との関連性の強さを示しているものといえる。また基盤構造や堆積盆地の双方を切るようにENE-WSW方向の構造線が抽出されており、本地域は大局的にはこのENE-WSW方向の構造線に支配されているものと考えられる。

カリウムの放射線異常もNW-SE方向の低磁気異常帯と同様の分布をなし、特にエルデネット鉍山のオープンピット上で特徴的な高放射線異常を示している。このNW-SE方向のトレンドはさらに西側に連続してKhujiriin gol鉍徴地地域へとつながっている。

空中物理探査結果から、Fig. I-5-1に示したように今後の有望地域を抽出した。基本的には鉍化との関連性の深いと考えられる地域1に認められるNW-SE方向から西側に伸びる構造線を含むゾーンを中心として、カリウムの放射線異常の高い地域を含めている。

3-7 地質調査対象地区の空中物理探査結果

3-7-1 Zuukhiin gol 地区

本地区の極磁気変換磁力図及びカリウム放射線図をFig. II-3-12及びFig. II-3-13にそれぞれ示した。Zuukhiin gol鉍徴地は一部低磁気異常域に含まれるが、高カリウム放射線異常域は認められない。

3-7-2 Mogoin gol/Khujiriin gol 地区

本地区の極磁気変換磁力図及びカリウム放射線図をFig. II-3-14及びFig. II-3-15にそれぞれ

れ示した。Mogoin gol 鉍徴地は一部低磁気異常域に含まれる。Mogoin gol 鉍徴地の北部地域に高カリウム放射線異常域が認められないが、Mogoin gol 鉍徴地の南部地域に高カリウム放射線異常域が認められる。

Khujiriin gol 鉍徴地はやや高い磁気異常域に含まれる。また Khujiriin gol 鉍徴地は高カリウム放射線異常域に含まれる。

3-7-3 Tsagaan Chuluut 地区

本地区の極磁気変換磁力図及びカリウム放射線図を Fig. II-3-16 及び Fig. II-3-17 にそれぞれ示した。Tsagaan Chuluut 山周辺の白色変質帯は相対的に高い磁気異常域に含まれ、カリウム放射線異常域は認められない。

3-7-4 Erdenet Mine 地区

本地区の極磁気変換磁力図及びカリウム放射線図を Fig. II-3-18 及び Fig. II-3-19 にそれぞれ示した。ポーフィリー型銅モリブデン鉍床であるエルデネット鉍山は、強い低磁気異常域に含まれ、また高カリウム放射線異常域に当たる。

Erdenet Central 鉍徴地は、2つの小さな強い低磁気異常域に含まれるが、高カリウム放射線異常域を含まない。Erdenet Intermediate 鉍徴地は、NW-SE 方向に伸びた強い低磁気異常域に含まれるが、高カリウム放射線異常域を含まない。Erdenet SE(Oyut)鉍徴地は、強い低磁気異常域に含まれるが、点状に分布する高カリウム放射線異常域を含む。

3-7-5 Danbatseren 地区

本地区の極磁気変換磁力図及びカリウム放射線図を Fig. II-3-20 及び Fig. II-3-21 にそれぞれ示した。Danbatseren 鉍徴地は低磁気異常域や高カリウム放射線異常域を含まない。

3-7-6 Undrakh 地区

本地区の極磁気変換磁力図及びカリウム放射線図を Fig. II-3-22 及び Fig. II-3-23 にそれぞれ示した。Undrakh 鉍徴地は非常に高い磁気異常域に位置し、高カリウム放射線異常域は認められない。

3-7-7 Tsookher mert 地区

本地区の極磁気変換磁力図及びカリウム放射線図を Fig. II-3-24 及び Fig. II-3-25 にそれぞれ示した。Tsookher mert 鉍徴地は磁気異常域が認められないが、非常に高いカリウム放射線異常域に含まれる。特に、鉍化作用の母岩は花崗閃長岩からなり、もともとカリウムの含有量が高いので、高いカリウム放射線異常域を示すものと考えられる。